# 車両制御特論レポート2

九州工業大学大学院 工学府 機械知能工学専攻 知能制御工学コース

所属: 西田研究室

学籍番号: 16344217

提出者氏名: 津上 祐典

平成28年8月10日

#### 1 与えられたシステム

学籍番号によって決まった制御対象は,

$$\dot{x}(t) = ax^{3}(t) + b\cos 2t + c(x^{2}(t) + 1)u(t)$$
(1)

$$a = 3, b = -6, c = 2$$
 (2)

である. また, 理想モデルは,

$$\dot{x}_d(t) = -4x_d(t) + r_d(t) \tag{3}$$

である. ここで,

$$\tilde{x}(t) = x(t) - x_d(t) \tag{4}$$

とおくと追従誤差方程式は,

$$\dot{\tilde{x}}(t) = \dot{x}(t) - \dot{x}_d(t) \tag{5}$$

$$= ax^{3}(t) + b\cos 2t + c(x^{2}(t) + 1)u(t) - \dot{x}_{d}(t)$$
(6)

となる.

#### 2 適応追従コントローラの設計

#### **2.1** *a*, *b*, *c* が既知のとき

エネルギー関数を $V(t)=\tilde{x}^2(t)$ とおく、エネルギー関数の時間微分を解析すると、

$$\dot{V}(t) = 2\tilde{x}(t)\dot{\tilde{x}}(t) \tag{7}$$

$$= 2\tilde{x}(t) \left[ ax^{3}(t) + b\cos 2t + c \left\{ x^{2}(t) + 1 \right\} u(t) - \dot{x}_{d}(t) \right]$$
 (8)

となる. ここで入力 u(t) を

$$u(t) = -\frac{ax^{3}(t)}{c(x^{2}(t)+1)} - \frac{b\cos 2t}{c(x^{2}(t)+1)} + \frac{\dot{x}_{d}(t)}{c(x^{2}(t)+1)} - \delta\tilde{x}(t) \quad (\delta > 0)$$
(9)

とすれば,

$$\dot{V}(t) = -2\delta c(x^2(t) + 1)\tilde{x}^2(t) < 0 \qquad \text{for any } \tilde{x}(t) \neq 0$$
 (10)

となり、システムを漸近安定化することが出来る.

#### **2.2** a, b, c が未知のとき

次に, a,b,c が未知な場合を考える. 入力 u(t) を

$$u(t) = -\frac{\hat{a}}{\hat{c}} \frac{x^3(t)}{x^2(t)+1} - \frac{\hat{b}}{\hat{c}} \frac{\cos 2t}{x^2(t)+1} + \frac{1}{\hat{c}} \frac{\dot{x}_d(t)}{x^2(t)+1} - \delta \tilde{x}(t)$$
(11)

$$= -\hat{\alpha} \frac{x^3(t)}{x^2(t)+1} + \hat{\beta} \frac{\cos 2t}{x^2(t)+1} + \hat{\gamma} \frac{\dot{x}_d(t)}{x^2(t)+1} - \delta \tilde{x}(t)$$
 (12)

とすると, 誤差追従方程式は,

$$\dot{\tilde{x}}(t) = ax^3(t) + b\cos 2t - \dot{x}_d(t) - c\hat{\alpha}x^3(t) - c\hat{\beta}\cos 2t + c\hat{\gamma}\dot{x}_d(t) - c\delta\{x^2(t) + 1\}\tilde{x}(t)$$

$$+ c\tilde{\alpha}x^3(t) + c\tilde{\beta}\cos 2t - c\tilde{\gamma}\dot{x}_d(t) - c\delta\{x^2(t) + 1\}\tilde{x}(t)$$
(13)

となる. エネルギー関数を

$$V(t) = \tilde{x}^{2}(t) + \eta_{\alpha}^{-1}c\tilde{\alpha}^{2} + \eta_{\beta}^{-1}c\tilde{\beta}^{2} + \eta_{\gamma}^{-1}c\tilde{\gamma}^{2}$$
(14)

とおく. ただし、 $\eta_{\alpha}, \eta_{\beta}, \eta_{\gamma}$  は推定ゲインである. 次に、エネルギー関数の時間微分を解析すると、

$$\dot{V}(t) = 2\tilde{x}(t)\dot{\tilde{x}}(t) + 2\eta_{\alpha}^{-1}c\tilde{\alpha}\dot{\tilde{\alpha}} + 2\eta_{\beta}^{-1}c\tilde{\beta}\dot{\tilde{\beta}} + 2\eta_{\gamma}^{-1}c\tilde{\gamma}\dot{\tilde{\gamma}}$$
(15)

より

$$\dot{V}(t) = 2\tilde{x}(t) \left[ c\tilde{\alpha}x^{3}(t) + c\tilde{\beta}\cos 2t - c\tilde{\gamma}\dot{x}_{d}(t) - c\delta\left\{x^{2}(t) + 1\right\}\tilde{x}(t) \right]$$

$$+ 2\eta_{\alpha}^{-1}c\tilde{\alpha}\dot{\tilde{\alpha}} + 2\eta_{\beta}^{-1}c\tilde{\beta}\dot{\tilde{\beta}} + 2\eta_{\gamma}^{-1}c\tilde{\gamma}\dot{\tilde{\gamma}} \quad (16)$$

となる. ここで,

$$\dot{\tilde{\alpha}} = -\dot{\hat{\alpha}} = -\eta_{\alpha}\tilde{x}(t)x^{3}(t) \tag{17}$$

$$\dot{\tilde{\beta}} = -\dot{\hat{\beta}} = -\eta_{\beta} \cos 2t \tilde{x}(t) \tag{18}$$

$$\dot{\tilde{\gamma}} = -\dot{\hat{\gamma}} = \eta_{\gamma} \tilde{x}(t) \dot{x}_d(t) \tag{19}$$

とすれば,

$$\dot{V}(t) = -2\delta c(x^{2}(t) + 1)\tilde{x}^{2}(t) \leq 0 \qquad for \ any \qquad \begin{pmatrix} \tilde{x}(t) \\ \tilde{\alpha} \\ \tilde{\beta} \\ \tilde{\gamma} \end{pmatrix} \neq \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$$
 (20)

となり、システムを安定化出来る.

以上より,以下の適応追従コントローラを得る.

$$u(t) = -\hat{\alpha} \frac{x^3(t)}{x^2(t)+1} + \hat{\beta} \frac{\cos 2t}{x^2(t)+1} + \hat{\gamma} \frac{\dot{x}_d(t)}{x^2(t)+1} - \delta \tilde{x}(t)$$
 (21)

$$\dot{\hat{\theta}}(t) = \begin{pmatrix} \dot{\hat{\alpha}} \\ \dot{\hat{\beta}} \\ \dot{\dot{\gamma}} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \eta_{\alpha} \tilde{x}(t) x^{3}(t) \\ \eta_{\beta} \cos 2t \tilde{x}(t) \\ -\eta_{\gamma} \tilde{x}(t) \dot{x}_{d}(t) \end{pmatrix}$$
(22)

#### 3 シミュレーション

Simulink で構成したモデルを以下にそれぞれ示す。システムの全体を図1に、理想モデルを図2に、制御対象を図3に、制御入力を図4に示す。また、図5-7に $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$  の推定器を示し、図8に $\delta$  に関するサブシステムを示す。

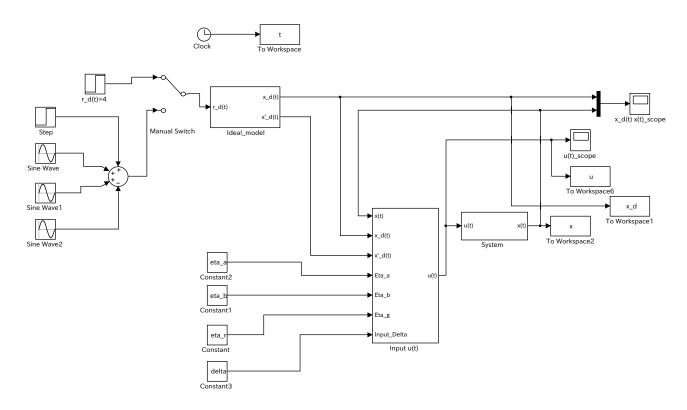


図 1. 構成したモデルの全体図

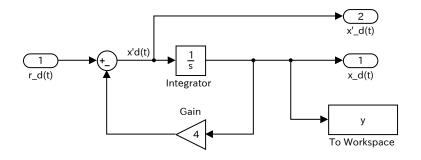


図 2. 理想モデル

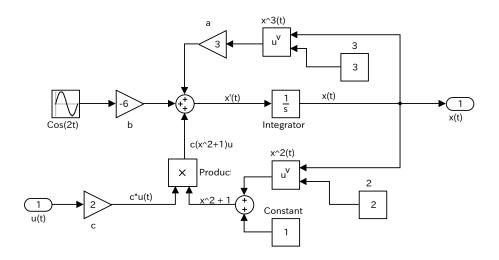


図 3. 制御対象

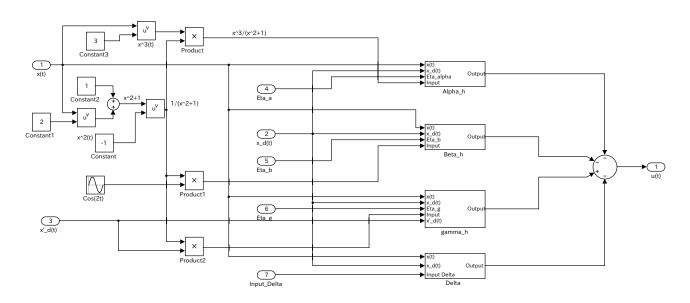


図 4. 入力 u(t)

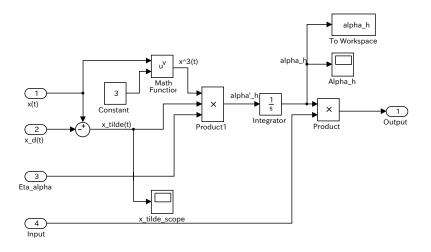


図 5. â の推定器

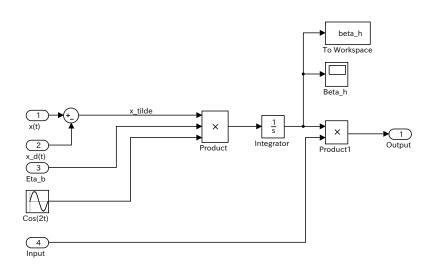


図  $6.~\hat{\beta}$  の推定器

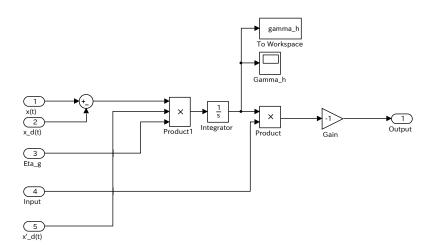


図 7.  $\hat{\gamma}$  の推定器

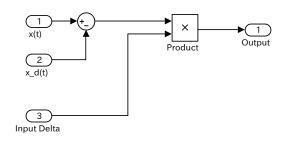


図 8.  $\delta$ に関するサブシステム

### 3.1 $r_d(t) = 4$ の場合

(3) 式にて  $r_d(t)=4$  とした場合,シミュレーションした結果を図 9 示す.また,図 10 に追従誤差  $\tilde{x}(t)$ ,図 11 に入力 u(t) を,図 12 - 14 に  $\hat{\alpha}$ ,  $\hat{\beta}$ ,  $\hat{\gamma}$  を示す.ただし, $\eta_{\alpha}=\eta_{\beta}=\eta_{\gamma}=1$  とした.

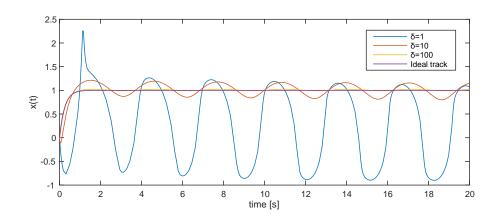


図 9.  $r_d(t)=4$  のときの理想軌道と x  $(\delta=1,10,100)$  の比較

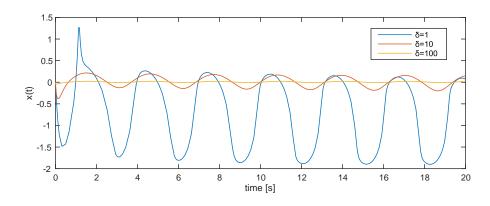


図 10.  $r_d(t) = 4$  のときの  $\tilde{x}$  ( $\delta = 1, 10, 100$ ) の様子

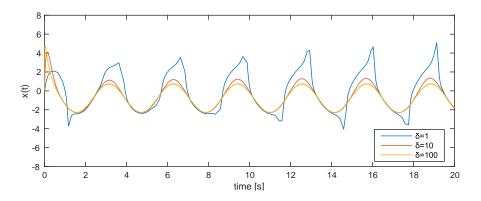


図 11.  $r_d(t)=4$  のときの u(t)  $(\delta=1,10,100)$  の様子

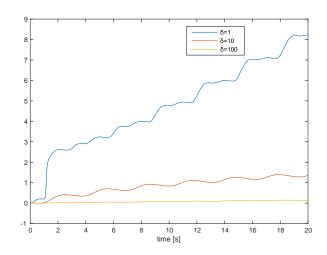


図 12.  $r_d(t)=4$  のときの  $\hat{\alpha}$   $(\delta=1,10,100)$  の様子

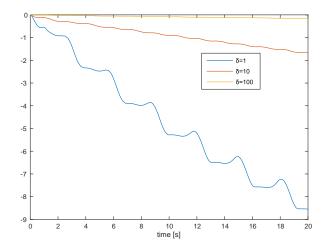


図 13.  $r_d(t)=4$  のときの  $\hat{\beta}$   $(\delta=1,10,100)$  の様子

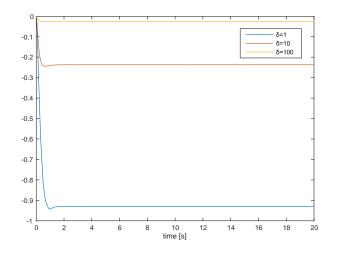


図 14.  $r_d(t)=4$  のときの  $\hat{\gamma}$   $(\delta=1,10,100)$  の様子

## 3.2 $r_d(t) = 4 + 0.5 \sin 0.5t + \cos 3t - 2 \sin 5t$ の場合

 $r_d(t) = 4$  の場合と同様にシュミュレーションした結果を図 15 - 20 にそれぞれ示す.

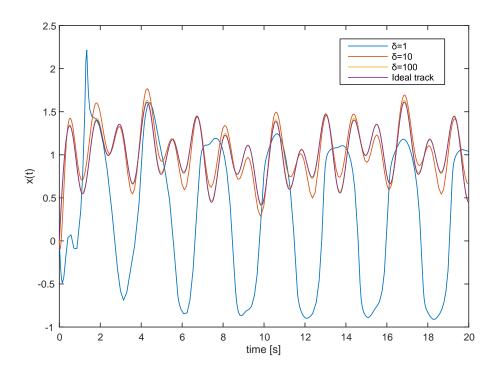


図 15.  $r_d(t)=4+0.5\sin 0.5t+\cos 3t-2\sin 5t$  のときの理想軌道と x ( $\delta=1,10,100$ ) の比較

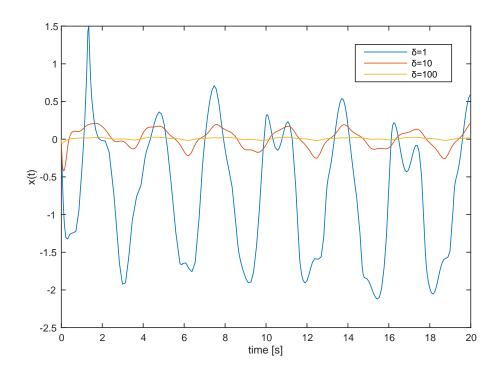


図 16.  $r_d(t)=4+0.5\sin 0.5t+\cos 3t-2\sin 5t$  のときの  $\tilde{x}$  ( $\delta=1,10,100$ ) の様子

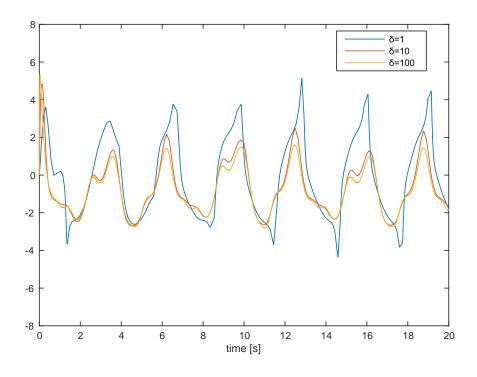


図 17.  $r_d(t)=4+0.5\sin 0.5t+\cos 3t-2\sin 5t$  のときの u(t)  $(\delta=1,10,100)$  の様子

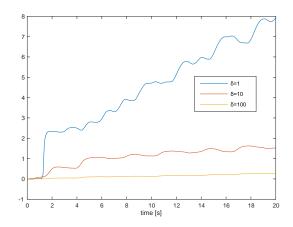


図 18.  $r_d(t)=4+0.5\sin 0.5t+\cos 3t-2\sin 5t$  のときの  $\hat{\alpha}$  ( $\delta=1,10,100$ ) の様子

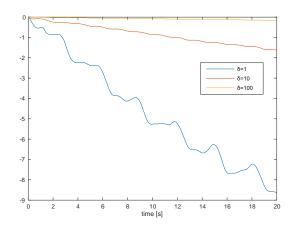


図 19.  $r_d(t)=4+0.5\sin 0.5t+\cos 3t-2\sin 5t$  のときの  $\hat{\beta}$  ( $\delta=1,10,100$ ) の様子

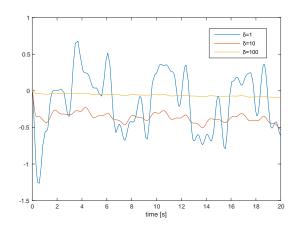


図 20.  $r_d(t)=4+0.5\sin 0.5t+\cos 3t-2\sin 5t$  のときの  $\hat{\gamma}$  ( $\delta=1,10,100$ ) の様子

#### 4 考察

図 9,15 を見ると設計パラメータ  $\delta$  を大きくすればするほど、理想軌道に対する追従性能が向上していることがわかる。しかし、大きくし過ぎると追従性能は向上しているが、小さく振動していることが確認できた。次に、 $\delta=1$  とし、 $\eta_{\alpha},\eta_{\beta},\eta_{\gamma}$  のうちひとつだけ値を変化させたときの応答を図 21 - 24 示す。ただし、 $r_d(t)=4$  とした。 図 21 より  $\eta_{\alpha}$  を増加させると追従性能が向上することがわかる。また、図 22 より、 $\eta_{\beta}$  を増加させると,応答が発散することがわかった。最後に、図 23,24 より、 $\eta_{\gamma}$  を増加させると定常状態においての追従性能は変わらなかったが、過渡状態(特に時間  $t=0\sim1[\mathrm{s}]$ )において、 $\eta_{\gamma}$  が増加すると追従性能が上がることがわかった。最後に、 $\eta_{\alpha}=1000,\eta_{\beta}=\eta_{\alpha}=1000,\eta_{\gamma}=\eta_{\alpha}^{\frac{3}{2}}=31622$  とした場合と、 $\eta_{\alpha}=1,\eta_{\beta}=1,\eta_{\gamma}=1$  としたときの比較をしたものを図 25 に示す。ただし、 $\delta=10$  とした。図 25 を見ると、推定ゲイン  $\eta$  を調整することでより良い制御性能が得られることがわかった。また、 $\eta$  を変化させたときのu(t) を比較したものを図 26,27 に示す。 $\eta$  を大きくすると良い制御性能を得られることがわかったが図 26,27 を見ると、 $\eta$  を大きくすると u(t) が時間  $0\sim0.3[\mathrm{s}]$  において振動することがわかった。

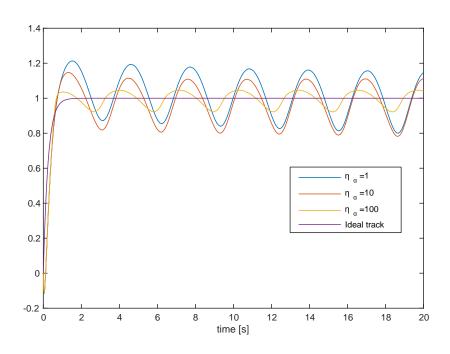


図 21.  $\eta_{\alpha}$  を変化させたとき x(t) の比較  $(r_d(t) = 4$  のとき)

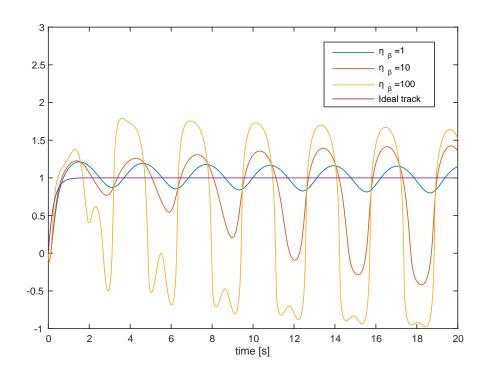


図 22.  $\eta_{\beta}$  を変化させたときの x(t) の比較  $(r_d(t) = 4$  のとき)

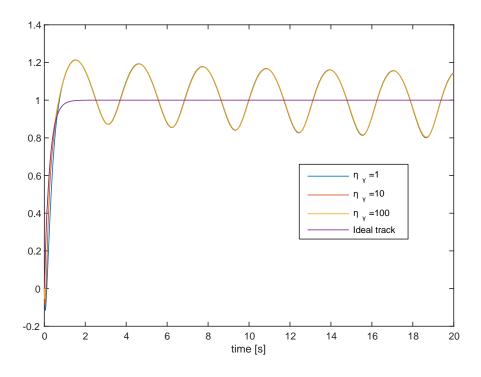


図 23.  $\eta_{\gamma}$ を変化させたときの x(t) の比較  $(r_d(t)=4$  のとき)

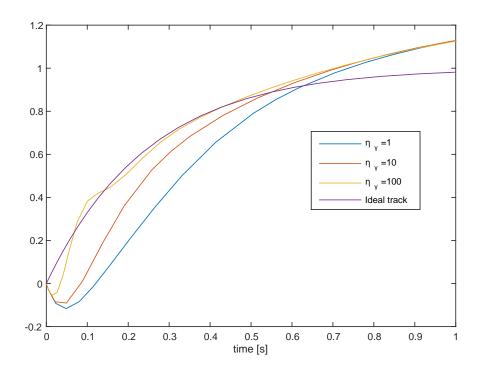


図 24. 図 23 の拡大図(時間  $t=0\sim 1[\mathrm{s}]$  について)

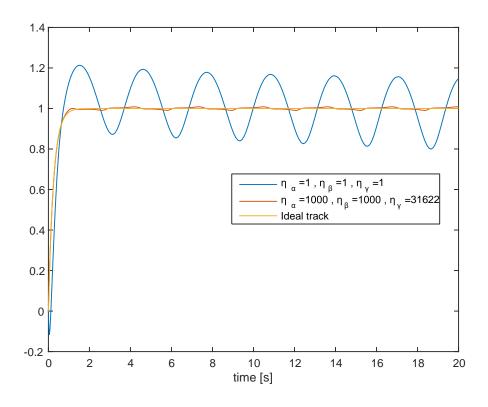


図 25.  $\eta_{\alpha}, \eta_{\beta}, \eta_{\gamma}$  を変化させたときの x(t) の比較

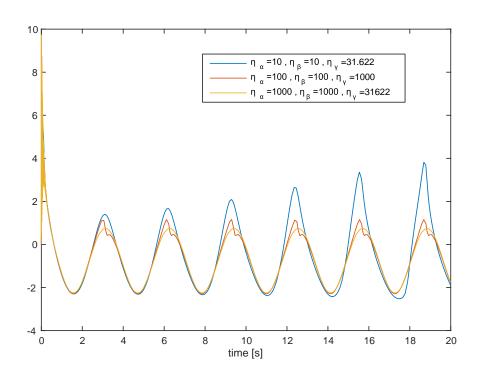


図 26.  $\eta_{\alpha}, \eta_{\beta}, \eta_{\gamma}$  を変化させたときの u(t) の比較

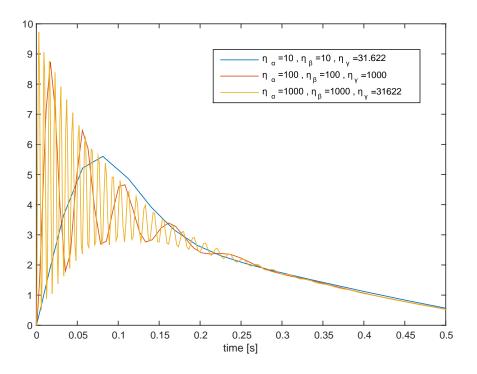


図 27. 図 26 の拡大図

## 参考文献

[1] 大屋勝敬:"車両制御特論 MATLAB+Simulink の利用法"